

みなしご通信



女子高生の想い 奇跡の復活猫

高1の女子学生から路上にいた猫の引き取りの電話が入りました。女子高生は一連の小難しい手続きをどこおりに終え「両親には秘密なのですぐに猫を迎えに来てください」と。自分が何かを犠牲にし精一杯努力をすれば誰かが協力してくれる…犬猫みなしご救援隊はそういう団体でありたい。

時刻は午後2時半過ぎ、猫が居る場所は栃木拠点から車で2時間弱の場所、午後6時からは犬のお世話が始まる。それには微妙に間に合わん…でも今日だけのことじゃし、誰かにカバ―してもらえばええかろう！急ぎよ千代ちゃんに猫のお迎えに行ってもらいました。「シツポが腐っていてウジがいっぱいいる状態です」

そうか…それで女子高生は急いで保護したんじゃね！激しい悪臭とウジの多さのうち者たちは一瞬引きましたが女子高生が助けたのにええ年したオバチャンが引くとかありえんし！

すぐに気を取り直してまずは補液！皮膚は引つ張れないぐらいガチガチに引つ付けていました。こんな状態で連日30度を超える中はて何日もつていたか…お次はちゅる。これに引つ掛ければイケる！これは中谷基準です。引つ掛かるじゃん♪イケるよ！現時点で鮮血は出てなくてもこんなにシツポが腐っていたら貧血のハズ。だから血を補いながら消化吸収のいいものを食べさせよう！予想通りよく食べてくれました。保護した段階で血液検査

の結果が悪くても断尾しないと状態は悪化します。ではいつ断尾するか。この子の場合食べてくれるから予後の管理がしやすいと読み、たった1回餌を与えただけで翌日早々に断尾することに。老眼を駆使しながらウジを避けるのにひと苦労（笑）なんでこくなつたかは見当もつかんけど、腐つたシツポを落とせば済むし、あとは感染症対策だけ！断尾は成功！

ついでに去勢手術も済ませ麻酔で寝ている間にゆっくりと健康診断。ノミが大量に寄生していました。保護してすぐにブラベクトをしたので翌朝の手術の時点でノミはすでに死んでいました。ザマ〜ミソラシンド私は動物に付く寄生虫は大嫌いです。シラミの抜け殻も。シラミは、安価な国産フードを食べている栄養状態の悪い子のカサカサした皮膚片を好んで食べるので、栄養状態が改善され皮膚の状態が上がる其自然といなくなりませす。これは私の経



験上間違いないありません。

歯のかみ合わせが悪いのでよく見たらキバが伸びて邪魔をしているとわかったので、下のキバを少し切り落としました。そして期待の翌朝。手術から24時間後、断尾切り口は100点満点♪そして朝からモリモリ食べてます。シツポが腐りまくってびっしりウジが付いている状態から翌日腐つたシツポを切り捨てそれからたったひと晩でこれです。もうなんの心配もありませんね♪

シツポが腐って悪臭を放ちウジが大量にいる猫を見て「なんとか助けてい」と《行動するおとな》が今の

日本にさて何人いるでしょうか…ほとんどの《おとな》は「野良猫だし」で見てもぬふりをして通り過ぎると思います。それを女子高生は親も頼らず入れ物まで用意して捕まえに行つてうちの小蔵しい一連の条件をみごとにクリアしたわけです。この素晴らしく美しい純粋な気持ち未来永劫女子高生に持ち続けてもらうためには私たち《おとな》が《頼れるおとな》になる必要があります。私たち犬猫

みなしご救援隊は、そこをしつかり心に留めて今後も引き続き《動物ファースト》でお世話をしていきたいと思ひます。

寄付の前に活動

私に寄せられる質問で割と多いのが「私も動物が好きだから、犬猫みなしご救援隊さんのような何百匹もの動物が保護できる大型の施設を作りたいのだけど、どうやったら寄付金が集まりますか」です。どうしたら？と聞かれてもねえ…細

かくいくと非常に複雑な答えになるので簡単に答えるのと、今の犬猫みなしご救援隊の施設も一朝一夕にできたわけではなく30年かけて今の形になったということ。最初からこんなにくさん居たわけではなく何匹から何十匹になり、気づいたら千匹超えになっていたのです。

命を育てていくということは「ちよつとした知識」と「ものすごい経験」がいると私は思うのです。もちろん知識がないと前には進みませんが、知識があってもそれを実践しないと正確なデータにはならないでしょう。やっぱり必要なのは実際に自分で《やる》という経験じゃろうね！どんなに本を読んで勉強し頭に詰め込んでいても、目の前に困っている動物が現れた時にないがでできるのかと想像したらやはり経験がないとほとんどなにもできずフリーズするだけですよね：目の前にいる動物が傷病を負った緊張したりして凶暴になっ

ていたら余計にね。

生意気なことに、私にはちよつとばかり人より経験が多いから不測の事態に強いし、なにより今の私は北海道から鹿児島までの風土気候や県民性それらを含めてそこで生きる動物たちのことを地元の人の話を聞いて実際に《見て触って嗅いで》いろんなことができていくからラッキ〜なんですよ。そんなこんないろいろんな経験をカテに犬猫みなしご救援隊の広島本部&栃木拠点&岡山拠点で動物たちが暮らしているのかなと思っっています。

まあまずは失敗を恐れずいろいろ経験してみてください。はい。ご寄付をいただくのはそれからだと思っしね。私たちのように寄付金で成り立っている非営利団体の場合、やった結果がすべてだと私は思うんですよ。「活動の対価」が寄付金なのか。もし私が寄付をする立場だったらやってもないのにお金だけ先にくださいってのは虫が良すぎる

と思うし、やりたい活動があるのに活動資金が足りなくてってことは現時点ではそこまでチカラがないって事だとも思うしね。《まずはできることをコツコツと黙ってやる》これが私の考えです。ちゃんとやっていることがわかればおのずと寄付は集まると思います。

鹿より犬な鹿

鹿は群れて生活する野生動物です。そんな当たり前のことをうっかり忘れていた私は失敗をしましました。UPAと伊予鹿3匹は同じエリアで暮らしていて、おやつもうまい具合に食べていたし問題がないよ



うに思えたのです。

しかし、ひとりっ子でお坊ちやまのUPAには徐々にストレスが溜まっていったようで、食欲が落ちてきたので生活エリアを分けることにしました。言うてもUPAもそこまで嫌ってはいないから、鹿ネット的なものでええじゃろうということになりました。

UPAはいつ見ても犬のまざる&けんたの近くにいます。「ボクは生まれた時から周りには猫や犬しかいなかったから鹿はどうも苦手で：」とUPA。鼻先をまさるに舐められたりしてます(笑)子どもの頃の環境ってすごいですね。おとなになってもそこは消えないんですねえ：

鹿だから鹿と一緒にがええじゃろう！そんな考えを起こしたことを反省しました。よく考えたら私も、人間と居るより猫と居たほうがええし♪

本紙は中谷百里代表ブログ「みなしご庵へようこそ」の記事を抜粋したものです。

ソフトバンクの「がざし募金」、ジャパングビングで寄付ができます。
(<https://japangiving.jp/supports/1281>) 皆さまからのご支援、よろしくお願いたします。

スマホをかざすだけで募金ができる

がざし募金

JAPANGIVING

みなしご通信のバックナンバーは、公式ページ
(<http://www.minashigo.jp/newpaper/index.html>)に掲載しております。

NPO法人(特定非営利活動法人)
犬猫みなしご救援隊
www.minashigo.jp

犬猫みなしご救援隊
〒731-0234
広島県広島市安佐北区可部町大字今井田690-2
TEL : 082-812-3745 FAX : 082-815-2711